



紫雲児の心

「干拓魂」で困難を乗り越えよう

校長 五十嵐 めぐみ

3月3日は卒業式です。2月は、卒業間近の3年生はもちろん、1・2年生も、3年生と一緒に過ごせる残りわずかな日々を、一日一日大事にする様子が見られました。一年間の締めくくりとなるこの時季には、4月から始まる新たな生活の中で、生徒の皆さんが、ますます伸びていってほしいという思いが強まります。

先日閉幕したミラノ・コルティナ冬季オリンピックのフィギュアスケート・ペアでは、「りくりゅう」こと三浦・木原組が、日本初となるペア競技での金メダルを獲り、私たちに大きな感動を与えてくれました。元々はシングルの選手だった木原選手は、ペアに転向後もうまくいかず、アルバイトをしながら競技を続け、三浦選手と出会ってペアを組んだそうです。2人がペアを結成してからの7年間でも、それぞれの怪我などの多くの困難がありました。2人はあきらめませんでした。それどころか、「怪我をして滑れない時間が自分たちを強くした。」と語っています。不屈の精神で困難を乗り越え、逆境を力に変えて掴んだ金メダルなのです。

かつての紫雲寺には紫雲寺潟が広がっており、米などの農作物を育てるのが困難な土地でした。しかし、江戸時代に多くの人々が力を合わせて紫雲寺潟を干拓し、今では、米や野菜、花やいちご（越後姫）など、様々な作物が実る豊かな土地になりました。

紫雲寺中学校では、生徒が紫雲寺潟の干拓史を学んでいます。また、小学校でも学習したり、家族や親戚、地域の方から話を聞いたりして、紫雲寺地域が干拓によって創られたという歴史について、深く知る機会も多くあります。

私が、紫雲寺潟の干拓史の学習を通して生徒の皆さんに学んでほしいのは、何と云っても「干拓魂」です。何度失敗しても決してあきらめることなく努力を続け、みんなで協力して紫雲寺潟の干拓を成し遂げた先人たちのように、これからの社会を生きていく中で、うまくいかないことがあってもあきらめずに挑戦し続け、周りの人と力を合わせて困難を乗り越えていってほしいと願います。「干拓魂」を忘れないでください。

1～2月は、学年・学級や生徒会活動、部活動などの様々な場面で、お世話になった人に感謝を伝えようと、生徒の皆さんが積極的に活動する姿が多くありました。また、先輩から仕事を引き継ぎ、責任を果たしていこうと意欲を高めている1・2年生の姿に、成長を感じました。今年度をしっかり締めくくり、次年度につなげていきましょう。